

主権者教育を考える！



国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え、自ら判断し、行動していくための「主権者教育」。2016年7月の参議院選挙から「18歳選挙権」が導入され、2022年4月には成人年齢が18歳となることから「主権者教育」の必要性が注目されています。

昨年6月に行われた中学3年生による「中学生議会」、同年12月に行われた小学6年生による「議会傍聴」も本町の子どもたちに向けた主権者教育の一環として行われました。未来の社会をつくる子どもたちへの主権者教育。本町の取り組みから、議会として何ができるかを考察します。

インタビュー

柴田 猛校長先生(新十津川中学校)に聞きました！



中学校での具体的な取り組みを教えてください
年に2回学級役員、生徒会役員の改選を行います。生徒会役員の選任は選挙で行い、候補者と候補者を推薦する責任者を立て、校内で立会演説会を行います。また、学校生活において各常任委員会を設置し、子どもたちが主体的に学環境における課題解決に取り組んでいます。学習面では、中学校3年生の社会科で学習し、総合学習では先日の中学生議会などを行っています。

中学生議会を経験して子どもたちはどうでしたか
「英語検定の受験費用の助成」や「桜並木を町のPRに」など、身近な話題が印象に残って

いるようです。しかし、提案したことには、「いいですよ」とならないことに複雑な思いを抱く子どももいました。社会にはいろいろな当事者がいて、さまざまな考え方があり、金銭面などの妥協点を探りながら突き詰めていく。そのことも子どもたちにとって非常に良い体験となりました。

主権者教育に対する子どもたちの取り組み姿勢は
生徒会選挙などでは、立候補を考えている子どもの背中を少し押しあげると積極的に立候補する姿勢が見られています。選ばれた子どもたちは、やりがいや責任感を感じながら積極的に活動してくれています。

主権者教育において、議会としてできることはありますか
子どもたちは、こども新聞に興味を持って読んでいます。同じように、子ども向けの議会日よりがあると、議会に興味を持つと思います。議会と子どもたちが語り合う時間として生徒会役員とコネクトする機会があると良いと思います。話し合いから生まれた話題で議会が動いてくれると子どもたちは注目するでしょう。

校長先生が思う主権者教育とは
選挙や民主主義など制度や仕組みを学ぶことも大切ですが、まちづくりに関わり参画することがとても大切だと思います。今回事業さと公園キャンプ場の名称に子どもたちの考えが採用されたことで、まちづくりをしているという実感と誇らしさを得たと思います。そのベースをつくるのが私たち教育者の役割と考えています。

中学生議会を体験した感想

※子どもたちの感想の一部をご紹介します

- ◎住みよい町にするため、少しでも役に立ったかなと思った。
- ◎議員として町の行政に要望（思い）を伝えることができて良かった。
- ◎議会を通じて、町が目指していること、現時点での状態などを直接聞くことができて良かった。
- ◎町長、教育長の話していた法律など、後で授業を通じて学ぶことができた。
- ◎めったにできない経験をさせていただいたことに感謝します。
- ◎自分たちが10年後に新十津川に住んでいなくても、未来のために今の改善点を掘り出したこと、可決されなくてもヒントにすることができたこと、この先の新十津川町に貢献できて良かった。町議会の人々が町のためにいつも影で支えてくれていることに感謝することができた。



国が考える主権者教育

※文科省「主権者教育推進会議」報告書より抜粋

「主権者教育を推進する上では、正解が一つに定まらない論争的な課題に対して、児童生徒が自分の意見を持ちつつ、異なる意見や対立する意見を整理して議論を交わしたり、他者の意見と折り合いを付けたりする中で、納得解を見出しながら合意形成を図っていく過程が重要」と指摘

☆今後の推進方策

- ①各学校段階等における取り組みの充実
- ②家庭、地域における取り組みの充実
- ③主権者教育の充実に向けたメディアリテラシー*の育成
- ④社会総がかりでの「国民運動」としての主権者教育の推進の重要性

※メディアリテラシーとは、メディアからの情報を主体的、批判的に読み解く能力

最後……

新十津川中学校・柴田校長先生のお話を伺い、本町中学校で取り組まれている主権者教育について知ることができました。主権者教育は単に選挙に行かせるためではなく、まちづくりに参画し、町の課題に興味を持ち、その解決に向け取り組む意識を育むことと認識しました。そのことを考えると、主権者教育は学校教育だけでなく、家庭、地域の中でも取り組んでいかなければならないことと感じます。

そして、議会で何ができるか……

それは、校長先生のお話にあった通り、議会の活動を子どもたちに分かりやすく、子どもたちが興味を湧く視点で伝えること。そして、提案のあった子どもたちと語り合っ場をつくり、子どもたちの思いや意見を議会活動に反映させていくこと。そのことが、私たちにできる主権者教育と気付くことができました。

未来の日本の社会を支える本町の子どもたちのために、早速、議会活動に組み込んでいけるよう取り組んでいきたいと思えます。